

# 西柘植小だより

みんながうからすてき げんきいっぱい えがおいっぱい

NO.18

2025 (令和7) 年 11 月 14 日

伊賀市立西柘植小学校

発行責任者 里田雅彦

## 校外学習Ⅱ

前号に続いて、子どもたちの学びについてお知らせします。

10月1日、4年生の3校交流会を西柘植小学校と霊峰中学校で行いました。子どもたちにとっては3年生に続き2回目の交流会ですが、今回は柘植小、壬生野小の子どもたちを西柘植小に招いての交流会ということで、どうすれば他校の子どもたちが安心して楽しく過ごせるかをよく考えて活動しました。はじめに、これまでの各校の学びを発表し、交流しました。西柘植小からは、1学期に行った車椅子体験での気づきや考えたことを発表しました。交流し合う中で、どの学校も共通して、人を大切にするために考え行動していることがわかり、これまでの活動への自信とさらに取組を続けていこうとする意欲をもつことができました。次に、将来子どもたちがともに過ごす霊峰中学校の体育館に会場をうつし、レクリエーションをしました。グループによる自己紹介、名前順や生年月日順による並び替え、ジャンケン列車等、みんなで楽しむことができました。子どもたちは、迎える側として全体の進行等、緊張しながらもしっかりとその役割と責任を果たすことができました。



10月6日、2年生が校区探検で新堂地区の南出さんをたずねました。まず、はじめに陶芸についてお話を聞き、作業場所や窯を見学させていただきました。その後、南出さんにご指導いただき、土を丸めたり、たたいて伸ばしたり、折ったりしながら「箸置き」づくりに取り組みました。土の感触を楽しみながら作業をすすめることができ、一人4個作りました。乾燥後、南出さんの窯で焼いていただき、学校に届けられました。それぞれに個性的な作品ができあがり、子どもたちは大喜びでした。南出さん



さんのお家ではヤギを6頭飼っており、子どもたちは餌をやる体験もさせていただきました。西柘植にあるステキをまた一つつけることができました。

10月9日、6年生がいがまち人権センターで、しらすぎ識字学級で学ぶ識字生さんや講師さんからお話を聞きました。子どもたちはお話の中で、識字生さんにとっていがまち人権センターが文字だけでなく差別についても学ぶところであり、家に帰りたくなるほど楽しく、自信をもつことができる場所であることを知りました。また、講師さんが学習して



いて嬉しいのは、講師も何も関係なく今、こうやって

みんなと並び、顔を見て話ができることであるという話が心に残りました。その後、センター内を見学させてもらい、センターの取組について学びました。学校へ戻ってきて振り返る中で、多くの子どもたちが今、自分たちにできることの1つとして自分たちの学級を安心して過ごせる場所、お互いのがんばりをともに喜び合える場所にしていきたいという思いを出し合っていました。



10月21日、5年生が社会見学で、四日市市立博物館、四日市公害と環境未来館へ行きました。まず、四日市市立博物館で特別展「手塚治虫展」を観覧しました。「鉄腕アトム」など、子どもから大人までを対象とした幅広いジャンルの作品に込められた人間や生命の尊さに関わるメッセージを感じ取っていました。また、「プラクシノスコープ」などにより、描かれた絵が動く仕組みを学ぶことができました。昼食後は、四日市公害と環境未来館で、語り部さんのお話を聞いたり、展示物を見学したりして、四日市公害について学びました。塩浜小学校の教室を再現したところでは、コンビナートが学校の間近に建設され、公害の危険と隣り合わせの生活をしてきた当時の生活の様子を思い浮かべていました。お話や展示から「科学の進歩のためには、少々の犠牲はやむを得ない」といった考えが公害を引き起こし、健康的に過ごす権利を奪っていったこと、裁判で「公害のおかしさ」を訴えて、公害のない今の四日市の青空を取り戻したことを学ぶことができました。



## 感染症対策をお願いします

先日、インフルエンザのため6年生の学級閉鎖を行いました。冬をむかえるにあたって、今後、感染症拡大が心配されます。学校では、手洗い・うがい・喚起の徹底の他、給食を各教室等で食べたり、密を避けるため「青空集会」を体育館で行ったりしています。各家庭におかれましても、引き続き子どもたちの健康にご留意いただきますようお願いいたします。